

# 期待高まるバイオプラスチック

環境に配慮したバイオプラスチックは着実に普及し、さらなる伸びが期待されている。自然に還る生分解性プラスチックに加え、原料が生物由来のバイオマスプラスチックも利用分野を広げ、環境型プラスチックの新たな時代が到来。バイオプラスチックの識別表示制度や国際標準作りにも力が注がれている。

●●●● 生分解性とバイオマス原料  
両面で環境配慮

●●●● 原料と分解性の概念  
正確な理解が課題に

プラスチックの環境配慮では多様な技術や製品が登場している。それらのなかでも生分解性とバイオマスの2種のプラスチックは「バイオプラスチック」として期待が高い。このうち生分解性プラスチックは使用後に自然界の微生物によって分解され、バイオマスプラスチックは再生可能なバイオマス資源を原料とすることで石油系資源の使用削減と地球温暖化防止に貢献する。

の2種のプラスチックはまったく別の概念だが、特に生分解性については誤解が多い（神波 即夫日本バイオプラスチック協会事務局長）。このため内容の一段の周知も課題となっている。

日本バイオプラスチック協会では両者の認定基準として、2000年に生分解性プラスチックの基準のグリーンプラ識別表示制度を、06年にはバイオマスプラスチックについてもバイオマスプラ識別表示制度を制定している。

●●●● 多様化と用途拡大で  
新たな時代迎える

日本バイオプラスチック協会では両者の認定基準として、2000年に生分解性プラスチックの基準のグリーンプラ識別表示制度を、06年にはバイオマスプラスチックについてもバイオマスプラ識別表示制度を制定している。

バイオマスプラスチックは当初、用途や性能が限られていたが、包装材料などで利用が広がり、自動車の内装や複写機の部材など耐久性が求められる分野でも採用が拡大している。実用化されたバイオマスプラスチックもポリ乳酸に限られていたが、その種類も多様になってい

●●●● 国際標準作りが急務  
日本の役割に期待

これを受けバイオプラスチックの基準作りも急務になっている。生分解性プラスチックは国際的に基準がほぼ確立しているが、取り組みが急がれるのがバイオマス系。今のところ国際標準はなく、「認証制度があるのは日本だけで国際基準作りも日本からの提案で議論が始まっている」（猪股顧問）段階。国際標準制定で日本の主導的な役割への期待も高い。

日本バイオプラスチック協会では両者の認定基準として、2000年に生分解性プラスチックの基準のグリーンプラ識別表示制度を、06年にはバイオマスプラスチックについてもバイオマスプラ識別表示制度を制定している。

「今まではポリ乳酸を使いこなすことで対応したが、他のプラスチックとの組み合わせで色々な素材が作られ、強度や耐

広告

企画・制作：日本経済新聞社 クロスメディア編集部

## 地球環境に配慮した素材

# 「バイオプラスチック」

自然から生まれた「バイオマスプラスチック」、自然に還る「生分解性プラスチック」は

環境に調和した循環型社会の実現に重要な役割を果たします。

日本バイオプラスチック協会は二つの環境配慮型素材を

「バイオプラスチック」と総称し、その普及促進に努めている団体です。

日本バイオプラスチック協会では

「バイオマスプラスチック製品」「生分解性プラスチック製品」

それぞれの普及と認知度向上のため二つの識別表示制度を運用しています。

### バイオマスプラ識別表示制度



再生可能資源（植物など）由来の物質を、プラスチック構成成分として所定量以上含むバイオマスプラスチック製品を「バイオマスプラ」として認証しシンボルマークの使用を許可する制度

### グリーンプラ識別表示制度



使用時従来のプラスチック同様に使用でき、使用後は炭酸ガスと水に分解、分解後も土壌などに悪影響を与えないための、生分解性と、環境適合性の基準を満たした生分解性プラスチック製品を「グリーンプラ」として認証し、シンボルマークの使用を許可する制度

# JBPA

## 日本バイオプラスチック協会